

# リレー 橋友録 私の橋歴書

<757>

が身にしみた。ここには同世代の仲間が居て、その方々と知り合えたことが一つ財産である。

次に建設コンサルタント

トの長大に移った。ここでは私の性格や、行動が会社に馴染まなかったのだと思う。亜流の仕事を

## 漂流人生

株式会社 アイペック

取締役 植野 芳彦

も寄与できるものであるはずである。さらに、特には、アイペックという非破壊検査会社で、今後老朽化が懸念される構造物の維持管理には非破壊検査技術が不可欠であると考える。現在勉強中である。

この「道路橋震災対策委員会」を担当することに成り、まさに不眠不休で対応した。これでは多くの(当時の)土木研究所の方々と一緒に来た。二つ目は「木橋技術基準検討委員会」(委員長東工大三木千壽教授)で木橋の技術基準を取りまとめた。そして、木橋技術協会を立ち上げた。3番目が「鋼橋積算基準の大改定」であり、建設コストの削減を目指し、10%程度削減した。この時は、現東北整備局副局長の岩崎泰彦氏や中部整備局道路部長の菊地春海氏と、徹夜で議論した。

3年ほど前から現在は、アイペックという非破壊検査会社で、今後老朽化が懸念される構造物の維持管理には非破壊検査技術が不可欠であると考える。現在勉強中である。

1981年に社会に出廻って来て面喰らった。職歴は、橋梁メーカー、建設コンサルタント、(現・巴コーポレーション)であった。ここでは、国土交通省の財団法人と設計現場↓工場↓設計と廻り、色々学ばせてきた。しかし、これと言ったことも、ここでの影言って誇れるものは無かったのも、ここでの影言。いわゆる実橋の設計実務が少ない。ほとんどの上司の清水実部長、雨が、システム開発や標準化、コスト削減そして基



そんな中、横河ブリッジで「CADAMS」(鋼橋の自動設計・製作システム)の共同開発を行った。当時まだまともなCADシステムは無く、図

化のプログラムの厄介さ

11のような災害復興に

術本部長の佐藤紀一様に